

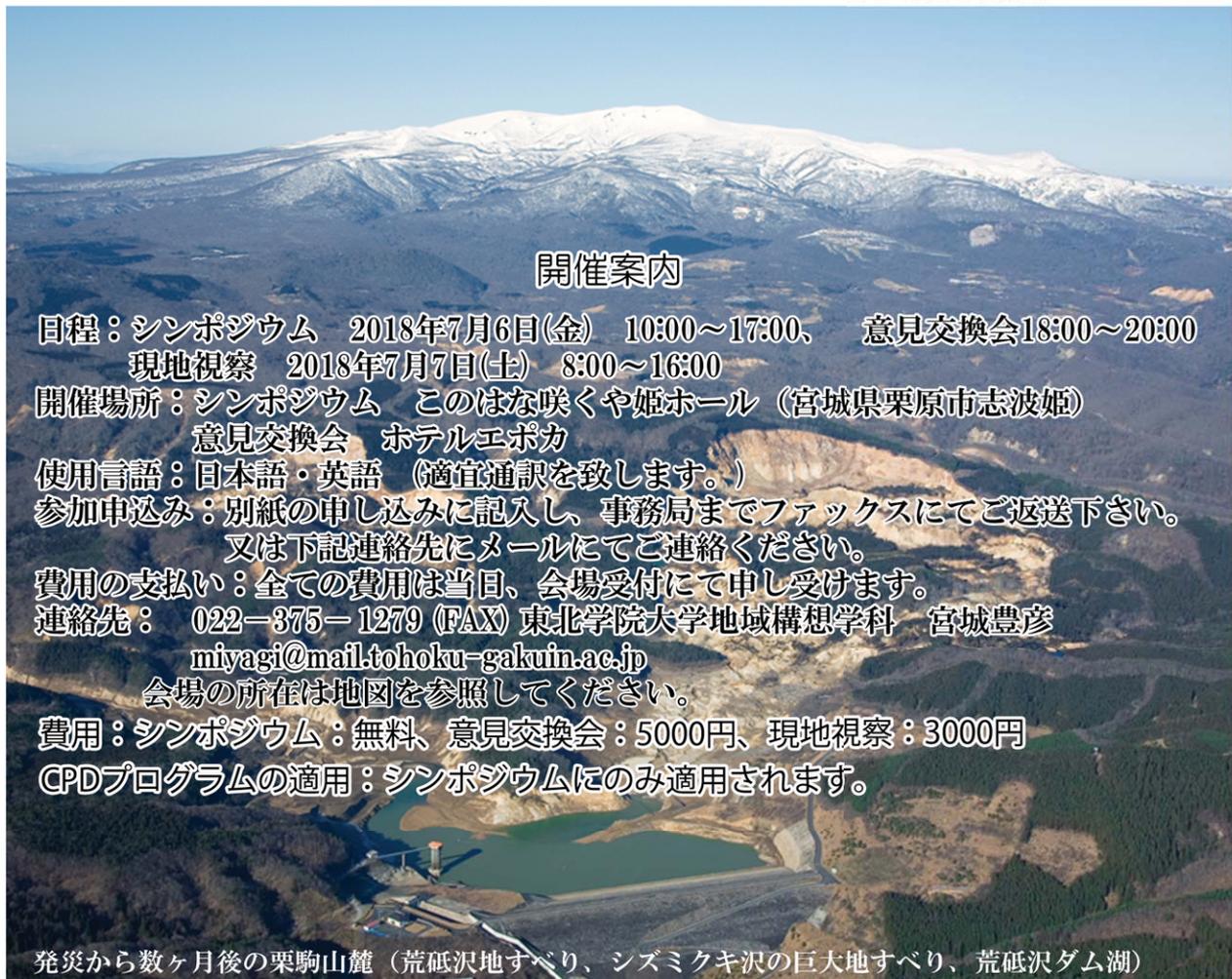
岩手宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム 地震による斜面災害の実際と克服の工夫

(公社)日本地すべり学会東北支部長 大河原正文
栗原市長・栗駒山麓ジオパーク推進協議会会長 千葉健司

挨拶 2008年6月14日朝に突如として発生した2008年岩手・宮城内陸地震では、最大震度6強という揺れと、4000箇所にあふ山地災害など苛烈な被害に見舞われました。この内陸地震は全く予期せぬものであり、地域復興の取り組みは今も続いています。この一方で2011年東日本大震災と津波の発生もあり、内陸地震の記憶は地元でさえ急速に薄れつつあります。このような状況に危機感を強める栗原市は、日本最大規模の地すべりである「荒砥沢地すべり」を始めとする山地災害の現場を「防災教育の場」、「自然の驚異を体感する場」として役立て、後世に伝えることを柱として栗駒山麓ジオパークを設立しました。震災発生から10年を迎え、復旧対策にも完成の目途がつき、地域では復興の兆しが見えつつあります。ジオパーク活動と学校の防災教育との協働も定着してきました。

この機会に、地震を契機とした災斜面害の実際と克服過程を振り返り、併せて国内外の斜面災害対応の諸事例に教訓を求めるために、表題の会議と現地視察を開催することと致しました。これらの企画を通して、「必ず、しかし何時どのように来るのかが判らない災禍」に対して平時の在り方を学び、災害メカニズム・防災・減災の具体を考察したいと思います。

多くの方々にご参集を賜り、活発な意見交換が実現することを願っております。



開催案内

日程：シンポジウム 2018年7月6日(金) 10:00～17:00、 意見交換会18:00～20:00
現地視察 2018年7月7日(土) 8:00～16:00

開催場所：シンポジウム このはな咲くや姫ホール（宮城県栗原市志波姫）
意見交換会 ホテルエポカ

使用言語：日本語・英語（適宜通訳を致します。）

参加申込み：別紙の申し込みに記入し、事務局までファックスにてご返送下さい。
又は下記連絡先にメールにてご連絡ください。

費用の支払い：全ての費用は当日、会場受付にて申し受けます。

連絡先： 022-375-1279 (FAX) 東北学院大学地域構想学科 宮城豊彦
miyagi@mail-tohoku-gakuin.ac.jp
会場の所在は地図を参照してください。

費用：シンポジウム：無料、意見交換会：5000円、現地視察：3000円
CPDプログラムの適用：シンポジウムにのみ適用されます。

発災から数ヶ月後の栗駒山麓（荒砥沢地すべり、シズミクキ沢の巨大地すべり、荒砥沢ダム湖）